

「帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業」実施体制（四日市市教育委員会）

日本語の習得が十分でない外国人児童生徒が在籍の場合

（成果イメージ資料）

【課題】

外国人の居住区の分散化が進み、市内全域に外国人児童生徒が在籍するようになった。拠点校だけでなく一般校においても、受け入れ態勢やJSLカリキュラムに基づく授業づくりを進めていく必要がある。学力保障や進路保障に向けて、日本語能力が十分に育っていない児童生徒への指導体制を再度確認し、整備していく必要がある。

【主な実施事業の概要】

- ・ 拠点校の設置
- ・ 初期適応指導教室の設置
- ・ 在籍校へ適応指導員の派遣
- ・ 外国人幼児児童生徒教育検討委員会の実施
- ・ 指導員等の研修会の実施
- ・ 外国人児童生徒教育担当者研修会の実施
- ・ プレスクール・進学ガイダンス等就学進学支援
- ・ 適応指導員の派遣及びオンラインでの翻訳・通訳の実施

拠点校

＊ 初期指導教室があり、来日してすぐの児童生徒に、日本語の初期指導、学校生活への適応指導を行う。
（市内に4校設置）

初期適応指導教室「いずみ」

＊ 初期指導教室があり、来日してすぐの児童生徒に、日本語の初期指導、学校生活への適応指導を行う。（3ヶ月程度の通級指導）
＊ 保護者へのオリエンテーションや相談を行う。

在籍校

＊ 適応指導員を派遣し、日本語指導・学習補助・就学相談等を実施する。
（小・中学校30校に派遣）

- 外国人幼児児童生徒等教育検討委員会の実施
＊ 来日児童生徒等の受入体制や各学校における指導体制等について協議
- 指導員等の派遣及び研修会の実施
＊ 日本語指導や学校生活への適応指導のために、適応指導員を在籍校に派遣
＊ 効果的な支援が行えるよう、適応指導員の研修会を年2回実施
- 外国人児童生徒等教育担当者研修会等の実施
＊ 外部講師を招聘し、各校の支援体制、指導力の向上のために担当者研修会を実施
- 進学ガイダンス及びプレスクール等就学進学支援
＊ 進学に係る説明・相談のために進学ガイダンスを開催
＊ 小学校入学に係る学習支援等のためにプレスクールを開催
- 通訳・翻訳支援
＊ 学校説明会等への適応指導員の派遣、オンラインを活用した拠点型での翻訳及び通訳

【成果と今後の課題】

初期適応指導教室や拠点校での取組、日本語能力の測定方法等を担当者研修会で周知し普及することで、各校の支援体制、指導力の向上を図った。また、拠点型の翻訳・通訳業務により、学校が必要な時に必要な支援を受けられるようになり、各校に配置している適応指導員はより多くの時間を児童生徒の指導に充てられるようになった。

一方で、児童生徒一人ひとりの日本語能力に応じた指導体制の構築方法に悩む学校も存在し、日本語能力が十分に育っていない児童生徒への支援体制の充実が求められる。拠点校での実践を基に研修や専門家の活用を進め、各学校の受け入れ態勢や「日本語で学習活動に参加する力」の育成を目指した授業づくりを引き続き推進する必要がある。